

第9回地区庶務担当理事連絡協議会

(平成29年2月22日開催分)

△森会長挨拶

森府医会長は冒頭、中央情勢に触れ、診療報酬・介護報酬の同時改定に向けた議論が進んでいるとし、社会保障費の財源確保が困難な状況での大変厳しい改定になると見通した。また、診療報酬改定ではICTの活用が大きな課題であるとし、レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)の民間利活用など健康産業への取組みが検討されているが、レセプトはあくまで請求書であり、どのような医療が行われているかをレセプトから全て判断することは出来ないとし、患者の真の状態を表すならば電子カルテ等の分析が必要ではないかとの考えを示した。

さらに、遠隔診療は病状が安定している患者に対し、画像診断等において一定の要件の下で診療報酬上の評価がなされているものの、日常的な遠隔診療には課題が山積しており、医療に対する安易なアプローチを助長することは、かえって医療費の無駄使いに繋がるのではないかと疑問を呈した。

また、アメリカIBMの人工知能「ワトソン」が、診療の補助手段として診断、治療の選択に今後使用されてくるとし、コンピューターが高性能化したとはいえ、機械は人間が使用して初めて真価を発揮するものであり、医師が診断を機械の判断に委ねることはあってはならないと批判した。

最後に、府医からB型肝炎ワクチンの定期接種の対象や接種期間、MRワクチン不足への適切な対応についての要望書を京都府、京都市、日医に提出したことと、近畿医師会連合からMRワクチンへの適切な対応について厚労省に要望書を提出したことを報告し、挨拶を締めくくった。

△報告ならびに協議事項

1. 医療機関に退蔵されている水銀血圧計等の回収事業に係る地区医師会への分配金について (谷口理事)

昨年9月に実施した医療機関に退蔵されている水銀血圧計等回収事業の収支について説明し、地区医への分配金として、血圧計の回収台数に応じた金額を支払うことを報告した。

2. 最近の中央情勢について (古家理事)

1月下旬から2月中旬にかけての社会・医療保険状況について、医療法改正案や薬価改定の話題を中心に説明した。

3. 学術講演会の今後の予定について (小野理事)

3月に予定している京都府医師会学術講演会を紹介し、多数の参加を募った。

4. 平成 28 年度（第 33 回）勤務医部会総会の開催について（上田理事）

と き 2 月 26 日（日）午後 1 時～5 時 30 分（懇親会含む）

と ころ 京都府医師会館 3 階大ホール

テーマ 「そこが知りたい！医療事故調査制度」

上記の日程で開催することを報告。医師のほか、医療安全に携わる関係者（看護師・薬剤師・事務職員等）の積極的な参加を求めた。（医報 2 月 15 日号参照）

5. 「医師のワークライフバランスを探求する！」の開催について（三浦理事）

と き 3 月 4 日（土）午後 2 時 30 分～6 時（懇親会含む）

と ころ 京都府医師会館 2 階

上記の日程で開催することを報告。女性医師のみならず、管理者の医師、男性医師、夫婦での出席等、多くの参加を呼びかけた。（医報 2 月 15 日号参照）

6. その他

なし。

7. 地区からのご意見・ご要望

なし。